

ミラノ訪問レポート

都市を活用した大規模イベント運営の実例

2026年3月、イタリア・ミラノを訪問しました。

滞在中はオリンピック・パラリンピック開催期間中であり、都市全体が一つの大きなイベント空間として機能している様子を体感する機会となりました。

今回はパラリンピック閉会式前日のタイミングでの訪問となり、各会場や街の様子を通して、大規模国際イベントにおける都市の使い方や設計について観察しました。

● 都市全体で展開されるイベント空間

ミラノでは、競技会場だけでなく、街中のサイン、交通機関、広場など、あらゆる場所にオリンピック・パラリンピックの要素が組み込まれており、都市全体がイベントの一部として機能していました。

地下鉄の案内表示や街中のバナー、聖火の設置など、来訪者が自然にイベントの中に入り込むような設計がされており、「会場の外」でも体験が続く構成が印象的でした。



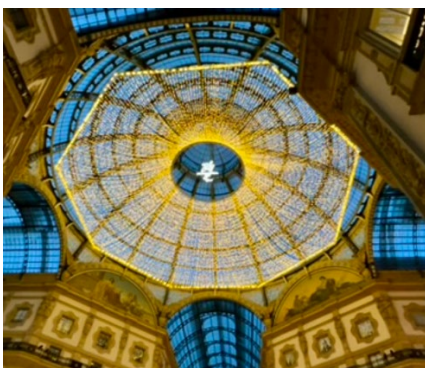
ミラノ市庁舎（Palazzo Marino）に掲げられた各国旗と大会関連装飾



ミラノ中心街に展開された大会ロゴのライトアップ装飾



ミラノの観光中心地「ドーム広場」にカラフルに投影される大会ロゴ



有名な観光地ガレリアの天井に展開された特別ライティングと大会ロゴの演出



地下鉄車内にも展開される大会プロモーション（都市全体での一体的な演出）

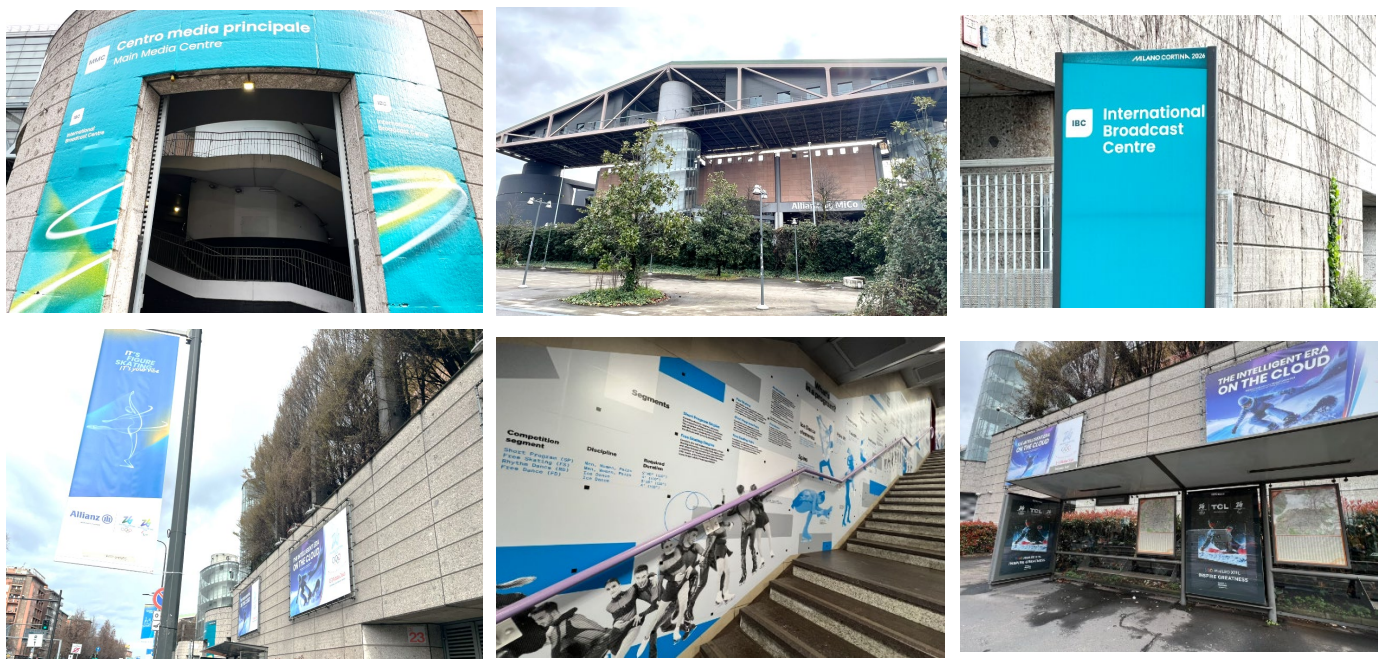


● プレスセンターとして機能するコンベンション施設

Allianz MiCo（ミラノコンベンションセンター）

ミラノコンベンションセンター（Allianz MiCo）は、ヨーロッパ最大級のコンベンション施設の一つであり、今回の大会ではプレスセンターとして活用されていました。

この会場は広大な展示スペースと柔軟なレイアウト構成を持ち、大規模なメディア対応や情報発信拠点としての機能をもっていました。会場内に入ることには出来ませんでしたが、東京オリンピックにおける東京ビックサイトと同様に報道関係者向けに最適化され、通常の展示会場とは異なる使い方がされている点は興味深いものでした。



国際プレスセンターとして使用される Allianz MiCo（ミラノコンベンションセンター）とその周辺

● 開会式会場としてのスタジアム活用

Milano San Siro Olympic Stadium（ミラノ サンシーノ・オリンピック・スタジアム）

開会式会場として使用された San Siro スタジアムは、サッカーの AC ミランとインテルが本拠地とするサッカーの聖地であり国際試合でも知られるミラノを代表する大型スタジアムです。今回の大会では、スポーツ施設としての機能に加え、オリンピックの開会式の演出空間としての役割も担い、大規模イベントの象徴的な会場として活用されました。



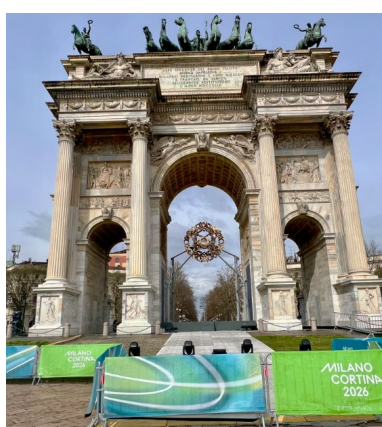
● ミラノという都市が持つ「イベント文化」

ミラノは今回のような国際スポーツイベントだけでなく、年間を通じて世界的な見本市やイベントが開催される都市でもあります。

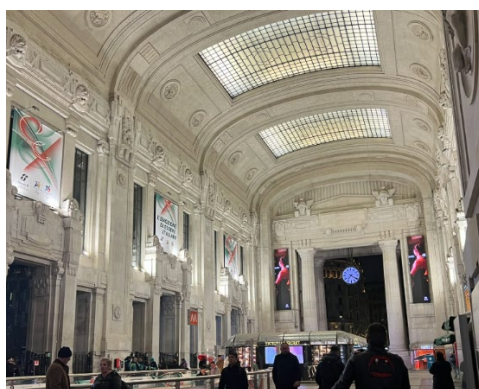
その代表例が、毎年4月に開催されるミラノサローネ国際家具見本市「Salone del Mobile.Milano」です。前述のミラノコンベンションセンターを含むフィエラ・ミラノで開催される本展に加え、市内各所で展開される「Fuorisalone（フォーリサローネ）」と合わせて「ミラノデザインウィーク」と呼ばれ、世界中からデザイナーや企業が集まる一大イベントとなっています。

このイベントは家具・インテリア分野にとどまらず、近年では工業デザインやテクノロジー領域にも広がりを見せており、さまざまな分野のデザイナーにとっても重要な発信の場となっています。

ミラノはこうした国際的な見本市を継続的に開催してきた背景を持ち、都市として「人が集まり、発信し、交流する場」を長年にわたり形成してきたことが、今回のような大規模イベントの運営にも活かされているように感じられました。



市民の憩いの場センピオーネ公園
内の「平和の門」に設置された大会
オブジェと聖火



歴史的建築でもあるミラノ中央駅に広がる人
の往来と大会バナー（都市全体での演出）



観光客と地元の人々でごった返すミラノ・大
聖堂ドーム前
この周辺に多くの大会演出が展開される

● 都市とイベントの関係性

今回の訪問を通じて感じたのは、ミラノが単に「会場を提供する都市」ではなく、「都市全体をイベント化する設計」がなされている点でした。既存のコンベンション施設やスタジアムといったインフラを活用しながら、街全体に統一されたビジュアルや導線を設けることで、来訪者に一貫した体験を提供していました。

展示会や国際会議においても、会場単体ではなく都市との連携をどのように設計するかが、今後ますます重要になると考えられます。ミラノの事例は、大規模イベントにおける都市活用の一つのモデルとして非常に示唆に富むものでした。

付録：スカラ座で体験した“社交”としての文化

ミラノ滞在中、歴史あるスカラ座でオペラを鑑賞する機会がありました。

舞台芸術としての完成度の高さに加え、ホワイエでの会話やカクテルを楽しむ時間も含めて、一つの体験として設計されている点が印象的でした。オペラは極めて高度な総合芸術であると同時に、人と人が出会い、関係性を深める“社交の場”としても、長い歴史の中で育まれながら熟成されてきた文化でもあると思います。

感動や体験を共有することが、人と人とのつながりを生み出す重要な要素であることを改めて実感し、展示会や国際イベントにおいても、「体験」と「交流」をどのように設計するかという視点の重要性を感じる機会となりました。



ミラノのオペラハウス スカラ座 （写真中央がサロン）

（記：岩口摩理子）

M.I.Office は、国際会議・展示会・イベントの企画運営を通じて、国内外のビジネス交流と価値創出を支援しています。

活動レポートでは、スタッフが現場や訪問先で得た気づきやトレンドをご紹介します。